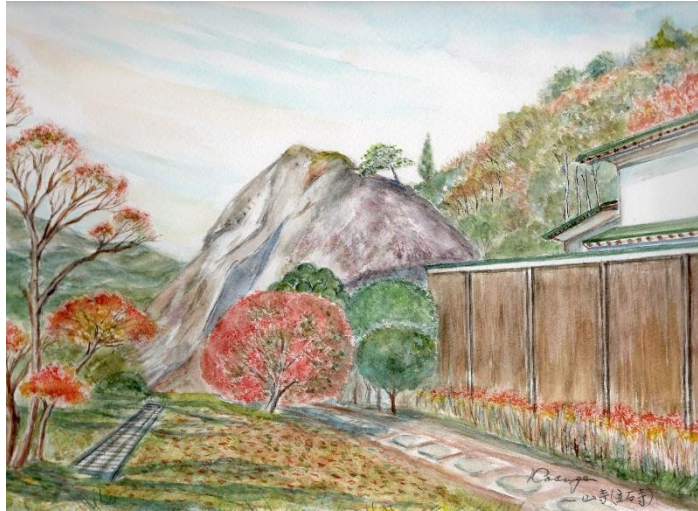


2021 第 55 号

千葉支部だより



J・A・C



令和 3 年 10 月発行

発行元（公社）日本山岳会千葉支部
〒285-0850

佐倉市西ユーカリが丘 5-12-4 松田方

発行者 松田 宏也

編集者 小川 和敏

E-Mail cib#jac.or.jp #を@に

（表紙の絵）

山寺立石寺・宿坊の庭

水彩画 小菅 一弘

疾風に勁草(ケイワ)を知る

千葉支部長 松田 宏也

前々号の（53 号）支部だよりで「コロナトンネルの出口はもうすぐだ。ワクチン接種までは気を抜かず、健康維持に努められるように」とは楽観的に言ったものの、まったくの大外れ。トンネルの出口が未だ見えない事態に陥るとは誰が予見したでしょうか。ワクチン接種が済んだというのに自由に山にも行けず、このまま感染爆発が続けば、ロックダウンが発令され、家に引き籠る生活をせざるを得ないんじゃないかとの悲観的な考えに陥ってしまいそうです。しかしながら、今こそ火事場のバカぢから、踏ん張りどころと自分に言い聞かせ、自力でこの最悪事態を乗り切るしかありません。

「疾風に勁草を知る」ということわざが中国の後漢書にあります。強く厳しい風が吹き荒れてはじめて、折れることのない丈夫な草かがわかるとの意です。逆境や不運に見舞われた時こそ頼りになるのは、登山を通じて育成された危機管理能力と強い意志力だと私は思います。コロナは猛威を振るう大自然と一緒に人間にへつらってくれることはありません。コロナから自分を守るためには、巷に溢れる不安を煽るニュースに耳を閉じ、信頼できそうな情報から確実なものを選び、自己責任で守りの行動を積み重ねることが重要です。登山に置き換えれば、安全登山という言葉よりも確実な一步を踏み出す冷

静な判断と体力こそが自分を救ってくれるということです。

ということで、コロナ禍においても with コロナで登山を楽しむ皆さんに、確実な登山に必要な知恵をつけ冷静な対処が取れるよう、11 月末は山の救急医療、来年の 3 月末には山の天気講習会を開催致します。詳細は別途案内いたしますが、多くの方々の参加をお待ちしています。

さて、そろそろ房総 Base の季節が始まります。清掃、草刈りと管理に手間を取られましたが、有志の会員のおかげで快適な古民家風 Base になりつつあります。冬季シーズンは千葉の山登りに最適な時です。上述の 2 件の講習会の講師にも Base に泊まっていただき翌日は親睦登山を予定しています。いよいよ 120 周年記念事業の山岳古道の調査も始まります。灯りの少ない里山での星座観察会の開催も企画中です。また会報「山」8 月号にも投稿していますが、ここを拠点に他の支部の方々との交流を計り、山と人の世界を広げてゆきたいと思います。

鋸南町の里山に古民家を借りて果たして運営は大丈夫かな？との不安はありましたが、有志の方々から過分のご支援をいただいたおかげで、心配することなく運営ができるようになりました。改めて厚く御礼を申し上げます。

仲間がいれば夢は叶うものですね！！

【 目次 】

・コロナ禍の山行について	p 2
・山行記録 自然学クラブ巡検―東村山、⑩成東・東金食虫植物群落、大雪から日高へ、 デビュー山行の大滝根山	p 2～5
・新旧副支部長 挨拶 山口文嗣 山本哲夫	p 6
・山行記録 ナメラ沢、幌尻岳、利尻山、針ノ木岳・蓮華岳、御座山	p 6～11
・新役員 就任挨拶 甘楽敦夫 能美勝博 今井貴朗	p 11
・あの日の山 千葉支部第1回海外遠征・台湾「雪山」 三木雄三	p 12
・こんにちは 吉田稔・吉田望	p 13
・SAC（スケッチアート倶楽部）の近況	p 14～15
・OMM（オリジナル・マウンテン・マラソン）参加記録 藤木玄三六	p 16
・ウォーキングクラブ活動報告 杉本正夫	p 16
・支部山行の予定	p 17～19
・事務局からのお知らせ	p 19～20

コロナ禍の山行について

思いもよらないコロナの蔓延によって、山行の形態が昨年辺りから大きく変わってきています。縦走などでお世話になる山小屋の営業も完全予約制となり、コロナ対策として諸々の対策を求められているのが現状です。南アルプスの山小屋はほとんどが営業しないという事態になっています。

以下、主だった山小屋のコロナ対策として利用者に求めていることを拾い上げてみました。

槍ヶ岳山荘のグループ；必ずマスク、アルコール消毒液、体温計をご持参頂き、ご自身で体調管理の徹底をお願い致します。可能な限りインナーシート・シュラフカバーをご利用ください。飛沫拡散防止の為、館内でのうがい、歯ブラシのご利用はお控えください。

（槍ヶ沢ロッジ）新型コロナウイルス感染症対策の為、枕カバーをお客様自身にお取り頂き、枕に付けて頂くシステムになりました。

北穂高小屋；お持ちいただきたいものとしてマスク、消毒液、体温計 おすすめするものとしてウェットティッシュ、密閉できるビニール袋、インナーシート・・・

鳳凰小屋；

・【新型コロナウイルスの対策に最も有効な手段は、手指の消毒】です。

・マスクと消毒液・除菌シートをお持ちください。

・寝具が直接肌に触れないよう、【枕カバーとシート】【インナーシュラフ】 【シュラフカバー】のいずれかを必ずご持参ください。

山小屋によって、要求事項が微妙に異なります。それぞれの小屋の事情があるのだと思います。とにかく、基本的に完全予約制ですから、予約時に諸々確認することが肝心なようです。



緊急事態宣言下は自粛ですが、秋になったら山小屋利用の山行にも行かれるかと！

50歳未満は入会金と年会費2年間分を免除します！

千葉支部への入会には経験・年齢の制限は設けていません。身近な人で登山経験者や登山を始めてみたい方がいましたらご紹介ください。入会希望者向けの「お試し山行」に参加できます。日本山岳会への入会もご相談に乗ります。特に若い方が入会しやすいように、50歳未満の新入会員は入会金1,000円と2年間の年会費（正会員1,500円または会友3,000円）を免除します。

自然学倶楽部巡検

三木 雄三



自然学・臨時巡検 東村山の歴史と狭山丘陵

4月20日(火) 晴れ

参加者：杉本正夫、(L)三木雄三。

日本山岳会の研究グループ「山の自然学研究会(源原重行代表)」が主催した野外講座「東村山の歴史と狭山丘陵」に杉本さんと参加した。講師は山の地形学を専門とする著書の多い小泉武栄東京学芸大学名誉教授。東村山といえば新型コロナウイルスに感染し昨年亡くなったコメディアン志村けんさんの故郷。多摩地域のベッドタウン程度の知識しかなかったが、縄文時代から湧き水の恵みで発展した要衝の地であることが今回の巡検に参加して分かった。「地形が分かると新しいものが見えてくる」という視点が、山登りにも必要だと改めて感じさせられた。

西武線の東村山駅西口から歩く。道は狭山丘陵のある西側の方角に向かい下り坂となり、新川に出る。川の上流には縄文遺跡があり、かつてはコメ作りの水田が広がっていたという。坂を登ると国宝「千体地蔵尊」の正福寺はじめ鎌倉時代の創建だという古刹や樹齢600年のケヤキのある神

社などが多く点在して圧倒された。谷から台地に移動、八国山にも水が湧き、コナラはかつて炭の原料になった。

「やま学研」顧問の小泉さんは「丘陵に降った雨が湧き水＝写真＝となって新田開発に恵みをもたらした。鎌倉時代には新田氏など有力武士団がこの地を支配、たくさんの寺や神社が建てられた」と説明。台地や谷間の地形を生かし、多摩地域北部の中心地として発展していった歴史が歩いてみて分かった。



自然学・第10回巡検 成東・東金食虫植物群落

6月5日(土) 晴れ

参加者：新井好夫、稲川由紀、岩尾富士夫、黒住清美、香高真奈美、坂上貞子、塩塚生二、節田重節、竹内進、高橋琢子、中場義則、山田紀夫、舩木元、吉永英明、(L)三木雄三。



千葉支部の自然学クラブの巡検も10回目となり、今回は記念としてJACの研究グループ「山の自然学研究会」との合同で実施。支部からは15人が参加、総勢20人が千葉県の天然記念物第1号に指定された「食虫植物群落」を中心に巡検した。「やま学研」の源原重行代表が「本部と支部が同じ目的で共に交流できたことは、これからの山岳会の活動の広がりに新しい息吹きとなる」と挨拶した。

JR 総武本線成東駅から歩き目的地に到着。4班に分かれ大切に保存された約32000㎡の貴重な群落を見学した。ちょうど白い花のイシモチソウや地面の穴の内側に張り付くような姿の茶色のモウセンゴケが見ごろで、食虫植物のほかにも黄色のニガナ、紫のカキツバタ、ノハナショウブが風に揺れていた＝写真＝。

群落の次は「政男と民子」の淡い恋を描いた小説『野菊の花』の作者、伊藤左千夫の生家を見学。そのまま「野菊道」を成東駅方面に歩き記念碑のある公園で昼食。すると空に「彩雲」が出て一気に夏空。「暑いなあ」を連発しながら最後の巡検場所の「波切不動」へ移動した。縄文海進の頃は海だったが、弥生になると海が後退、陸地になった九十九里地帯。そんな所で市原市金剛地から伸びている地層の「砂岩」を見学。会報『山』編集長の節田さんは「千葉は面白い」と話していた。

大雪から日高へ

宮崎 美智代

山行日/天候 6月25日(晴れ) 26日(晴れ) 27日(晴れ)
28日(晴れ) 29日(雨)

参加者 CL 小川和敏、SL 三品京子、平出正美、吉田望、
三田芳江、宮崎美智代

タイム 26日 6:00 出発→ 8:30 銀泉台→ 12:30 赤岳→
15:30 銀泉台→ 17:00 糠平温泉
28日 6:00 出発→ 6:45 登山口→10:00 アポイ岳
→11:10 吉田岳→12:00 アポイ岳→14:45
登山口
29日 6:00 出発→ 9:10 登山口→10:00 樽前山→
10:40 登山口

本州では梅雨本番、梅雨のない北海道と思っていたが「蝦夷梅雨」なる時期があるそう。少々天候の心配ありだったが、結果は最終日以外は晴れて十分大雪・日高を満喫できた山行となった。

1日目・新千歳から途中、美瑛で昼食をとり然別峡温泉に宿泊。なかなかの秘境感。



準備体操後、登山開始。が、歩き始めてすぐ、足元に雪が。しばらく行った先の見上げた斜面(第一雪渓)には、一面真っ白に残っていた。昨夜の宿のご主人の話ではもっと少ない話しぶりだったはずと思い出しながら、みんなで仲良く尻餅をつきつつまずはコマクサ平で小休止。ちょうどコマクサも咲き始めていてその美しさに癒された。赤岳



まではまだ第3、第4の雪渓があり途中アイゼンをつけ、慎重に確実に緊張の連続だった。そんな思いの横をスノーボーダーたちが気持ちよさそうに滑り降りていった。苦戦しつつもいよいよ赤岳頂上に。頂上では大雪山らしい、ゼブラ模様の絶景をみんなで満喫した。昼食をとった後、白雲岳方面を散策し、天空

の花園を楽しんだ。白雲岳まで行けない代わりに赤岳の岩の上に登り写真を1枚。下山はまた気の抜けない雪渓を踏ん張って全員無事に銀泉台へと到着した。



3日目・6時宿出発。大雪山沼めぐり林間コース→浦河まで移動。

4日目・6時宿出発。宿から少しガスのかかるアポイ岳が見えた。登山口近くのビジターセンターの広場で朝食をとり熊出没注意の大看板のある登山口を出発。アポイ岳は地下深くのマントルから来たカンラン岩が作る固有の高山植物や貴重な自然を求め毎年多くの登山客が訪れ、見所スポットには案内の看板があり道迷いはない山だった。五合目までは林の中で涼しく快適だったがここからは森林限界となり日差しも強くなった。稜線部の登山道もゴツゴツとしたカンラン岩がむき出しになり、ハイマツや高山植物が見られるようになった※この標高(350m)でハイマツが見られるのは謎のひとつ。少し時期が過ぎていたのか、馬の背お花畑の花は少なかったが展望はよく眼下には雲海、アポイ岳側には日高山脈などが見渡せた。ここから1時間ほどで頂上に。少し前からダケカンバの林になり眺望はないが木陰の中で涼しく休憩。※このダケカンバ帯とハイマツ帯の逆転も謎のひとつ。ここで吉田岳に行く班と大休憩を取る班に分かれ私は吉田岳へ。反対側からのアポイ岳とシャクナゲの群生を楽しみアポイ岳へ戻りみんなで昼食。今日のアポイ岳は雪もなく2時間ほどで下山できた。



5日目最終日・6時宿を出発、出発後すぐの海岸で朝食、樽前山の登山口に着くと小雨、ガスも。少しでもガスが切れるのを期待しながら登るが最後まで悪天候。頂上ドームなど望めず活火山らしい登山道を感じつつ早々に下山した。



デビュー山行の大滝根山

上條 誠一郎

山行日/天候: 7月10日(曇)～11日(雨)
参加者:CL 松田宏也、SL 今井貴朗、湯下正子、三田博、
三田芳江、三品京子、平出正美、上條誠一郎(8名)
タイム:11日/大滝根山登山口10:23→霧島権現・日向
権現分岐11:03→大滝根山12:40→日向権現
→大滝根山登山口15:23
:12日/五色沼駐車場7:20→柳沼8:45→五色沼
駐車場10:00

【11日】午前9時に常磐道の中郷SAで集合し、登山口に向かう。途中雨が降っている場所もあったが大滝根山に近づくにつれ天候は回復していった。無事登山口に着きストレッチを済ませて登山開始。最初は平坦な道が続いたが途中から沢を横切るところやロープの急坂が増えていき想像していたよりもとてもきつかった。無事山頂に着き昼食をとった。山頂の展望は自衛隊の基地のせい



でありあまり良くなかったが、梯子で登った梵天岩からの展望はよく自衛隊のレーダーなどが見られた。集合写真を撮影し下山開始、すぐに案内板とその奥に道があったので進んだが、途中から藪漕ぎになってきたので引き返したところ、正規のルートが見つかりその道を進んだ。しばらく尾根上の緩やかな道を進んでいると、またもや藪道に入ったがすぐにルートを発見、あとは迷うことなく分岐で休憩後、沢沿いの道を下り登山口に着いた。

今日の宿は大滝根山から1時間半ほど移動した裏磐梯にある裏磐梯国民宿舎だ。国民宿舎というぐらいだからとても大きな宿かと思っていたが意外と小さくて驚いた。国民宿舎でいただいた夕食は山菜などの裏磐梯で採れる食材をつかっておりとても美味しかったです。

【12日】当初の予定では磐梯山に登る予定であったが雲がかかって雨も降っており、磐梯山に登るのはやめ裏



磐梯の有名な観光地の五色沼の散策になった。五色沼駐車場に車を止めて雨具と最低限の装備を持ち行動を開始した。五色沼の散策路は毘沙門沼、赤沼、みどろ沼、竜沼、弁天沼の順に沼のそばを歩いて観光できるように整備されていた。五色沼の沼はどれも水の色が違いとても綺麗で、また今度晴れている時に磐梯山とともに来てみたいと思った。何事もなく無事に行動を終えたが、まだ昼前だったので喜多方にラーメンを食べに行こうという事になり、喜多方に移動しそこでラーメンを食べたあと解散した。

この山行がデビュー山行となる上條です。今回、磐梯山に登れなかったのは残念ですが、また会津の山々に行く理由ができたのでよかったです。



磐梯山とは・・・

様々な湖沼の色を楽しめる五色沼をはじめ、あちこちで見られる雄大な風景、温泉などに恵まれて、一般的に「宝の山」と称される。(近年、銅山として栄えた。)ももとは「いわはしやま」と読まれ、「天に掛かる岩の梯子」を意味すること。その磐梯山の南側が表磐梯、北側が裏磐梯と呼ばれる。表磐梯からの姿は整っているが、裏磐梯からは崩壊の後が痛々しい感じの姿である。観光協会の資料によれば、19世紀に噴火をしているが、それは水蒸気爆発であって植生の回復は意外と早く、現在のような緑豊かな地として有名な観光地になったとある。崩壊壁には普通は見ることが出来ない成層火山の断面が見え、世界的に珍しいジオサイトとなっている。

副支部長が山口さんから山本さんに交代となりました。

副支部長の退任に際し 山口 文嗣

平成 27 年より 6 年間務めた副支部長の役を山本哲夫役員と交代することになりました。在任中は副支部長としては大した仕事が出来ず、支部の運営は三木前支部長、松田支部長に全面的に負担をかけてしまい申し訳なく思っております。その代わりに房総半島郡界尾根の踏査実施に約 4 年間集中することができました。分水嶺や郡界尾根に続き千葉支部一丸となって取組めるテーマはないかと模索していましたが、コロナの世界になってしまい、多勢での山行も難しくなっていました。そんな中、山岳会本部主導で「日本の山岳古道」の調査事業がスタートしました。第一次調査対象として千葉支部より鹿野山古道が選ばれました。

松田支部長より副支部長を退任しても引き続き山岳古道調査プロジェクトチームのリーダーを務めるよう仰せつかりました。力不足ではありますが、今後は山岳古道調査プロジェクトに専念したいと思っています。10 月ころより現地調査をスタートさせたいと準備しています。その節は皆様のご参加をお願いいたします。また何人かの方々をプロジェクトチームのメンバーとして推薦させて頂きますので、是非ご協力をお願いいたします。

副支部長就任に当たって 山本 哲夫

山は、20-30 歳代社会人山岳会に属し岩登りが主でした。県内は岩場がなく、今は登山禁止の鋸山垂壁上部 40m を山岳会先輩から提供されたアンカーボルト 40 本近くを使い、後輩と登ってみました。(写真) 捨て縄がクレモナロープで怖かったです。体力維持のため 40 歳から始めた自転車通勤、排ガスによる空気汚染に気づきエコを続け、走行距離は地球 5 周を超えています。現在も車利用を控え、ガソリン 20Km/1 で換算すると 1 万リットルの節約です。2016 年山の日記念「千葉の山」の撮影も自転車を半分利用しています。登山前の準備は自転車に加え 20Kg 負荷で階段登降とウォークを追加しています。負荷の内容は、重り 10Kg とカメラ機材 10Kg(望遠レンズ 2 本、三脚)です。総階段 950 段を目標にしていますが年々厳しいです。登山中の楽しみに、ゴヨウマツ・ヒメコマツ・ハイマツを 16 の山で撮影し記録に残しています。今年 4 月から眩暈が再発し、抑え込みながら山行と行事に協力したいと考えています。



ナメラ沢

竹内 進

山行日/天候:7月18日(快晴)

参加者:L 三田博、三品京子、三田芳江、竹内進(4名)

タイム:雁坂トンネル料金所駐車場 7:20→沓切沢橋 8:02→

峠沢 8:13→ナメラ沢 9:08→二股 10:34→青笹尾根 11:47

→峠沢 13:39→沓切沢橋 14:26→駐車場 15:05

涼しく、爽やかな日射しの中、雁坂峠への登山道から踏み跡を峠沢に降りる。沢靴に履き替え、沢準備。梅雨明けから 3 日目水量が多い。花崗岩の明るい開けた沢を気分良くナメラ沢の出会いに向かうと、注意力が散漫になっていたためか川原で転び尻もちをつき水浸しになる。年寄りの冷や水を女性メンバー二人にしっかりと目撃されてしまう。水は冷たくなく、



直ぐに乾くだろうと気を取り直してナメラ沢を登る。名前のお通り滑の多い沢で、次々と現れる高さ 2m 前後の傾斜の緩い滑滝を登っていく。傾斜は緩いが、硬い岩の表面が磨かれていて、コケの付いていない箇所でもかなり



滑る。足掛かり、手掛かりとなるわずかな凹凸や岩の隙間を見極め慎重に登る。手ごろな滝では水しぶきを浴びてのシャワークライミングを楽しむ。一昨年の連続台風による倒木が時折り行く手を遮るが、房総の沢の強烈な倒木帯を経験している我々には全く支障なし。二俣を分けると傾斜が急になり小滝が連続する源頭部になる。岩の割れ目からの湧き水をボトルに汲み、見つけた右岸の踏み跡に移る。良く出来た踏み跡で、ほとんど上に登ることなく尾根上に到着、沢装備をしまう。木がまばらで 20 cm ほどの背丈の笹が生えている見通しの良い、名前のお通りの青笹尾根を下る。下るにつれ、木が増え、暗い森となり、笹が無くなって踏み跡が分かりにくくなる。GPS で位置を確認しながら峠沢の出合に下降。靴を脱いで裸足で 2 回渡渉して対岸に渡り、来た道に戻る。猛暑の下界とは別世界の快適な一日となった。



幌尻岳

山田 紀夫

※個人山行



山行日：7月14日～16日（全日晴れ）

参加者：L 山本哲夫、小川和敏、山田紀夫（3名）

タイム：14日：ふかふか亭5：50→イドンナツ山荘7：55→新冠ポロシリ山荘15：22

15日：山荘4：45→徒渉地点5：44→中間地点7：48→大岩10：19→幌尻岳山頂10：44→肩11：30→山頂下山開始
13：05→沢トラバース地点14：00→新冠ポロシリ山荘着16：48

16日：山荘出発5：25→ヒグマ遭遇7：40→大理石沢8：22→イドンナツ山荘11：35→新冠レコードの湯15：56

私は日本百名山に挑戦し始め、今回登頂した「幌尻岳」で98座目となった。

幌尻岳が他の百名山と違う点は幌尻岳登山の全行程を通して「野性味が感じられる」という点にある。深田久弥「日本百名山」の選定基準は、①山の品格 ②山の歴史 ③個性とされている。幌尻岳の①の品格は、日高山脈の最高峰であり今も氷河期の名残を伝えるカールが大小20個以上ある点であり、アイヌ語でポロは「大きい」、シリは「山」の意味でありアイヌ民族に昔から敬われてきた点から②の歴史もある。③の個性は「野性味」としたい。具体的には、往復37Kの林道歩き、ヒグマが常に草むらに潜んでいる、そして長い長い笹藪漕ぎなどだ。我々が今回登頂したコースは、新冠川コース、2017年より田中陽希登頂を記念して「新冠陽希コース」と呼ばれるようになった。

7月14日：初日「ヒグマの潜む18.5kの林道歩き」

宿の「ふかふか亭」を午前5時50分車で出発、15Kほど走り林道入口、ここから先は携帯電話が通じない。3日間下界からの情報が全く入らなくなる。さらに車で40Kほど、新冠湖の美しい景色を見ながら7時55分「イドンナツ山荘」に到着。ここから徒歩になるため準備を整え8時20分、18.5K先の今夜の宿泊地「新冠ポロシリ山荘」を目指して歩き始める。山荘は避難小屋のためシュラフ、マット、3日分食料と少々アルコールを詰めたザックは重い。さらに、日高山系には多くのヒグマが生息し、この林道は頻りに現れるようだ。その証拠品の糞が林道に点々と残され、草むらの影には息を潜めてヒグマが我々を見守ってくれているという緊張状態だ。その熊さんに我々も敬意を表し鈴、ホイッスルそして熊スプレーを準備した。歩き始めると直ぐに第1ゲート、第2ゲートそしていこい橋ゲートと厳しいゲートが続く、林道は歩きやすく整備されているが、すぐ横の崖は崩れやすい岩で崖崩れ防止ネットが所々に掛けられ、谷側の道端は実際に崩れている箇所が多くあった。単調な山道だが高低差約300～400m、アップダウンが思っていた以上に何カ所もあり徐々に体力を消耗する。そんな中で、山荘まであと10Kmや5Kmの表示板は気持ちを奮立たせてくれた。奥新冠ダム、幌尻湖を過ぎ、歩き初めてから約7時間、15時22分、三角屋根の山荘到着。

7月15日：2日目「笹藪漕ぎとカール」

午前4時起床、いよいよ幌尻山山頂（標高2052m）を目指す日だ。天気も晴れ。山小屋（標高780m）を4時45分出発。昨年はコロナ禍の影響でこの山荘が使用禁止となり、登山道の整備もなされず荒れ放題の状態だった。今年の6月に新冠ポロシリ山岳会のボランティアにより一部整備されたが、全体的にはまだまだ荒れていた。

小屋を出発すると沢沿いに割合平坦な道を進んでいくが、崩落箇所にはロープのある高巻きがあり油断ならない。5時44分、このコースの下の徒渉箇所を飛び石で渡り、標高差1100mある山頂まで長い登りだ。ここから「笹藪漕ぎ」が始まる。普通に歩いて上から見ると、笹藪で覆われていて全く道がわからない。笹を漕ぎながら道を発見出来る時はまだ良い方で、笹の高さが背丈を超える箇所では、笹の下に潜る「笹潜り」をしないと道が発見出来ない。前夜に雨

などが降った次の日だったら体中ずぶ濡れになっていただろうが、幸いにも我々が登った数日間は晴天続きだった。日本百名山のなかで、こんなにも笹藪漕ぎを体験できる山はここしか無いだろう。

笹藪は、下の徒渉後の登りはじめから視界の無い急坂へと続き、7時48分中間地点標識を過ぎてしばらくするとやっと約2時間の笹藪漕ぎが終わる。そんな初めての笹藪漕ぎは楽しい体験でもあるが、大きく体力を消耗し歩行速度を著しく低下させた。やがて、上の徒渉箇所に到着。水場でもありしばし休憩となる。標高1600mを超えると森林限界を過ぎ低木のハイマツになり一気に眼前の視界が開け、稜線直下にある「大岩」が見えてくる。登りの勾配はさらに角度を増し高度感が味わえる。

大岩は見えているのだが、笹藪漕ぎの疲れも出てきて思うように足が前に出ずなかなか近付かない。息を切らせながら標高1800m位まで登るとエゾツツジ、ヨツバミヨガマ、チシマフウロなどの高山植物のお花畑が疲れを癒やしてくれる。そこから一登りして10時45分日高山脈の最高点2052m幌尻岳山頂に立った。この日の空は青空一色。日高山系の中心部にある幌尻岳山頂からは周囲360度の山又山の他では見られない絶景が広がり、南東には鋭い山容のカムイエクウチカウシ山、エサオマントッタベツ岳などや少し雪を残した眼下の北カールや東カールが望める。



日帰り登山では、山頂に着くと昼食をとり、時間の余裕が無いせいもあるが忙しく下山を始める。せっかくの絶景をできるだけ楽しめる時間的余裕がこれからの登山には欲しいものだと思いますが、今日は山頂で約2時間、昼食や珈琲をゆっくり飲み、贅沢な昼寝などをした。また、山頂から少し先の肩まで進み、戸蔭別岳に続く稜線が上縁となる見事なカールヴァントが熊の遊び場となっている七つ沼を取り囲んでいる絶景を撮影したりと贅沢な時間を過ごした。



13時5分下山開始。この頃に山頂からの青空に雲が少し掛かりはじめていた。山頂からはピストンで一気に下山したが、下りの笹藪は登りより山道が発見しづらく、笹に足を取られ不安定になった。それでも、16時48分山荘に到着したときは疲れはてた状態で、夕食もあまり喉を通らなかった。このコースの標準時間は往復で約7時間。我々は山頂での2時間、途中休憩の1時間を差し引いても標準より約2時間遅いペースとなった。今回の登山道の整備状況、特に笹藪漕ぎや昨日の林道歩き、18Kの疲れなどの要因でゆっくりペースに成らざるを得なかったのだろう。しかし、標準時間は参考時間であって自分の体力やその日の環境により異なるので、まずは安全第一を確保することで時間は二の次だろう。

7月16日：3日目「ヒグマとの遭遇」

4時起床、晴れ。朝食のフリーズドライで朝がゆを食べ、山荘5時25分、帰りの林道18.5Kを歩き始める。アップダ

ウンは続くが全体としては緩い下りのためか歩行速度は行きより少し速い。奥新冠ダムを過ぎ、左に新冠川を見ながら歩いて7時40分、林道より約2～30m下の土手草むらに一匹のヒグマを発見した。震える手でカメラのシャッターを切る。熊も我々に気付いた。ヒグマは臆病で人を見ると逃げると思っていたところ、突然、熊が立ち上がり両手を挙げたファイティングポーズをとり我々を威嚇（その後の調べによるとこのポーズは、熊の探索ポーズらしいことがわかった）しているようだ。これ以上この場にいるのは危険と判断。ゆっくりと後ずさりし現場を後にしたが心臓の鼓動は張り裂けそうだった。なんとか事なきを得ずにすんだが、熊に出会うこと自体が珍しく、まして体長1.5m位の熊が威嚇の姿勢をとった姿を見られたことと命の危険が無かったことの両方で運が良かった。その他にも、この林道では人に驚かぬ「尻尾の綺麗なキタキツネ」にも出会うことができた。気温は30度を超えていて北海道では何十年ぶりの猛暑、そのうえ熊に出会った緊張感もあり喉がからからになるも、山道には数カ所の冷たく旨い湧き水があり大いに喉を潤してくれた。

小屋を出発して約6時間、11時35分に登山口のイドンナップ山荘に無事到着。直ぐに車に乗りまた2時間の林道を走り、「新冠レコードの湯」に飛び込み、夕食はホテルのテラスでジンギスカンと冷たいビールを飲み、太平洋に沈みゆく夕日を眺めながら3日間の疲れを癒やした。



山の豆知識 北海道のヒグマ

ヒグマは学名「*Ursus arctos*」で「クマのなかのクマ」という意味。日本では北海道に生息していて、その数およそ2000～3000頭と言われている。最初のクマが出現したのは今から約二千万年前のことらしい。その後、ヨーロッパとアジアに生息していたがヨーロッパでは絶滅してしまい、アジアのクマが進化してヒグマになったとのことである。クマの呼び方は「隈獣（くましし）」に由来しているらしい。「隈」とは奥間の略で隠れて見えないところをいう。つまり、人目につかない獣を意味している。

ヒグマは自然生態系の頂点に君臨する日本最大の野生動物。北海道では「山親父」と俗称され、アイヌ民族は神を意味する「カムイ」と畏敬の念で呼んでいた。一般的にヒグマは肉食類ということになっているが、完全な雑食性でその時その時でいろいろなものを食べる。ヒグマが食べるのは草、木の実類の他に昆虫、魚類、鳥などで、その死骸でも食べるとか。即ち、人間の食べるものは何でも食べるので、登山時に食料を残してきたりするのは自然生態系の観点からも好ましくないことになり、北海道にはフードトラッカーが用意されているのである。

登山中に遭遇するとやはりビクッ



としてしまう。遠いカールにその存在が認識できる場合などは、「クマを見た」ということでうれしい出来事に。が、割合近い場合は、30mほど離れた崖の下にいてもその存在は脅威。まして、立ち上がった時の驚きと言ったら・・・しかしながら、後でじっくり調べてみたところ、クマが立ち上がり鼻をヒクヒクさせる行動は相手を確認するためのもので、決して威嚇ではないらしい。でも、怖かった！

以下、知床財団「ヒグマ対処法」から

とにかく、突発的に走って逃げるとか、大声でわめくような行動は、ただでさえびくっているクマを更に怯えさせ、ストレスのあまり防衛的な攻撃に移らせる可能性があります。落ち着いて。静かに。走らない！ ゆっくり両腕をあげて振り、穏やかに話しかける。すぐそばに障害物（立木など）があれば、可能ならクマとの間にそれを置く位置関係に静かに移動（注：万一の突進に備えて）。クマ撃退スプレーがあれば準備しながら…と言いたいが、多くの場合、そんな余裕はない。ほとんどの場合、啞然として立ちすくむと、とたんに、クマが全速力で逃げていきます。「走って逃げると…」ヒグマは素早く動くものに反応します。あなたが走って逃げると後を追いかけてくるかもしれません。ちなみに、ヒグマは時速60kmで走ることが可能です。

利尻山

山田 紀夫

※個人山行

山行日：7月19日（晴れ）

参加者：L 山本哲夫、小川和敏、山田紀夫（3名）

タイム：宿出発4：30→登山口発4：36→甘露水4：51→

長官山8：20→利尻山頂10：55、下山開始

11：35→長官山13：12→登山口着16：06

（行動時間：11時間半）

1. 「白い恋人」の山

北海道土産の一番は「白い恋人」だが、そのパッケージに描かれている白い山が利尻山で利尻富士とも言われる。深田久弥「日本百名山」では、北の秀峰として一番目に数えられ、山名はアイヌの言葉で高い山を意味する「リイ・シリ」に由来する。利尻山のある「利尻礼文サロベツ国立公園」は日本最北端の国立公園に属し、北海道北西部の海岸から約20Kmの海上に浮かぶ標高1721mの山で、外周約60Kmの島の中央に美しいコニーデ型の山容を誇ってそびえている。北峰と南峰があるが、南峰は崩落が激しく現在は立ち入り禁止となっている。

我々は、新千歳から飛行機で利尻島に向かったが、上空からも海の上に大きく浮かんだ山。利尻島はそのまま利尻山だ。最初に灯台山ともよばれ特徴のある標高93mの巨大な岩山のペシ岬が出迎えてくれた。

着いた日の利尻は、35度以上で近年になく暑い。クーラーの無い北の外れの宿では、暑い風をまき散らす扇風機をつけっぱなしにして眠れない夜を過ごした。

2. 「甘露泉」は命の水

登山当日の天気は晴れ、暑い日だった。宿の送迎車で「鴛泊コース」の登山口（220m）のある北麓野営場についたのは、4：36。早速、靴底を洗って入山する。

15分位歩くと三合目の名水100選に選ばれている「甘露泉水」に着きペットボトルにたっぷりの水を詰める。利尻山は山頂10合目を頂点として各号目ごとに標識があり、山頂までは一本道で迷う心配はない。5合目くらいまでは針葉樹林の散歩道のような気持ちの良い山道を登る。島には蛇や蝮、ヒグマはいないと言われているので安心だ。ただ2018年ヒグマが20Kmの海を渡ったと報道され地元で驚愕が走ったが、その後の専門家の調査によれば「もう島には99%いない」と発表され現在は落ち着いているようだ。



6合目の第1見晴台からは海岸が見え始め鴛泊港や鴛泊の町並みが見

3. 「工事現場」を登る

急斜面を登ると9合目、崩壊しかけているザレ場が続く。登山道の試験的な補修もしている。土壌がもろく踏みつけや雨水の流水により急速に浸食が進んでいるらしい。ポット状の階段などもありまるで工事現場のような場所を登る。このあたりから、リシリヒナゲシ、ハクサンイチゲなどが現れ山頂にかけてリシリリンドウ、リシリオウギ、トラノオなどの高山植物の天空のお花畑。9合目半で杓形コースの分岐点と合流。



4. 「花と雪渓とローソク岩とイワツバメ」の山頂

そして、10：55山頂到着。山頂は北峰（1719m）と南峰（1721m）の双耳峰。山頂利尻神社の奥宮としての祠は北峰に鎮座し、ここを利尻山頂としている。南峰への道は崩壊が進み危険なため一般登山者は登らない。頂上からの広大な眺め、周囲に広がるお花畑、圧倒的な迫力のローソク岩、雪渓やイワツバメなどが疲れを癒してくれる。



11：35下山開始。下山は同じ道を下る。下山時、長官山からの利尻山は登りの時と光が違いさらに美しく見えた。暑い日だったので、水は2Lを持って行ったが長い下山時に全て飲み尽くし、終着近くの甘露泉では、ペットボトル2本を一気飲みし、登山口へは16：06に無事到着した。利尻の温泉に入り、上手いビールとウニ・イクラ丼を食べたことは言うまでも無い。

（注）国土地理院では利尻山という名称がつけられているが「利尻岳」、「利尻富士」、「利尻火山」とも呼ばれている。

針ノ木岳・蓮華岳

宮崎 美智代

山行日/天候:7月24日(晴)25日(曇時々晴)26日(晴)
参加者:L松田宏也、湯下正子、坂上光恵、三品京子、
今井貴朗、宮崎美智代

タイム:24日/移動日(白馬駅前民宿に泊)

25日/扇沢6:20→針ノ木雪渓取付き10:00→

針ノ木小屋13:35

26日/針ノ木小屋5:00→蓮華岳6:40→針ノ木小屋

8:10→針ノ木雪渓取付き11:00→扇沢14:30

24日:オリンピックも始まり、それに伴い、コロナ感染者の増加、首都高の交通規制や料金上乘せ、台風接近など気になることが多い中での出発となった。民宿「昇盛館」に泊まる。



25日:宿より扇沢に5:40着。支度をして6:20登山開始。登山届受付の方に雪渓情報を聞いたところ取り付きの箇所が要注意との事。大沢小屋までの前半は車道と登山道を何回か交互に繰り返しガレた沢のトラバースや渡渉をしながら木陰の中を進んだ。いよいよ大雪渓を前に雪渓の歩き方と落石の諸

注意をリーダーより受ける。夏の雪渓はスプーンカットの連続でその部分に足を置くと平らで歩きやすく見た目にも黒くなっているのがわかりやすい。その通り気をつけながら登ると軽アイゼン無しでもたやすく進んだ。途中キックステップでの登り方を教わったが習得までには至らなかった。1時間半ほどで雪渓をクリアし夏道に戻り、砂礫を丸太で土留をしたつづら折りの登山道を登りきると針ノ木小屋に出た。チェックインと休憩をとりザックを身軽にし針ノ木岳へ向かった。登り始めはガスがかかっていたが、頂上に着

く頃にはちょうど晴れ間があり眼下に黒部湖が望めた。天気が不安定なため帰りを急いだがあと一息という所で雨に降られてしまった。

26日:今日の行程と昨日の行程時間を考え5:00に小屋を出発し蓮華岳へ。名前のイメージ通り登山道は針ノ木岳より優しかった。昨日は見えなかった剣岳も迫力ある姿を



見せてくれた。そして頂上付近では待ちに待ったコマクサの群落が私たちを迎えてくれた。私たちは淡いピンク色がちりばめられた頂上で感激しながら朝食をとった。登山者から雷鳥の親子と白いこまくさとの遭遇を聞いたが、それらは確認できなかった。それでも私達は満開のコマクサに大満足して下山を始めた。前日は思ったより時間のかかった雪渓だったが、下山は軽アイゼンをつけたので安定した感じで安全に通過した。雪渓を過ぎると小さな鎖場や岩場があり、大沢小屋までと扇沢までは暑さにやや時間はかかったが無事に登山口へと到着した。



コマクサ

高山植物の女王と称され、多くの登山者を癒してくれる。漢字では「駒草」となり、蕾の時の花の姿が細長く馬のように見えることから名づけられたとされる。万人が思う可憐な姿に拘わらず、その生育環境は相当に過酷なものである。ご存じのように、環境の厳しい高山帯、中でもほかの高山植物が生えることができないような稜線の砂礫地に多く見られる。乾燥の地に、時には強風が吹き荒れる。よくもまあ、こんなところだと思うが、文献によれば、地上部は小さくても地下に茎や根を長く伸ばしているらしい。小さなコマクサからはとても想像がつかないが、地下では1m以上に伸びていることもあるようである。そして、結果、ほかの植物との競争が少なく、光合成に必要な太陽を独り占めができる。この根は下に岩盤が在れば横に広がるので、むやみにコマクサに近づくことは慎むべきである。北海道のコマクサはどちらかというと色が濃い。トムラウシで深紅のコマクサが見られたとの話がある。本当に神秘的な色合いだったらしい。

今年度の新規役員、協力委員の方々です。

新監事 甘楽 敦夫

千葉支部の監事をお引き受けすることとなりました甘楽敦夫（つづらあつお）です。千葉支部に入会してまだ5年ほどですが、少しでも支部のお役に立てればと思っております。中学・高校時代には山に登っていましたが、大学時代以降は、登山よりは広く旅に惹かれ、機会があれば山も少し歩く程度になってしまいました。50代半ばを過ぎてまた山に登りたくなり、2015年に日本山岳会に入会しました。都会の人工的な世界を抜け出して、あるがままの大自然に身を置くことに魅了されます。

仕事柄会計に関わっていることもあって、JAC本部の財務委員会にも参加しています。「公益社団法人」に特有の会計・税務処理が、JACには要求されているわけです。普段は、定年のない個人事業での会計事務所の仕事に追われて、なかなかゆったりした時間が取れず、体力にも自信がないのですが、できるだけ千葉支部の山行に参加していきたいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。

新監事 能美 勝博

この度、三田さんからお話をいただき、監事に就任しました。現役時代、監査に似た仕事をしていた時期もあり、プロの甘楽さんも就任とのことで、軽い気持ちで引き受けました。なので、抱負はと問われても、真っ白な頭に影すら浮かばないのですが、今、役員の方々を筆頭に様々なアイデア企画が出され、多くの皆さんがクラブライフを楽しんでいるので、これを後押しするような監査ができればと考えております。

前任の塩澤さん、高橋さんは、監事の仕事だけではなく、山行においてもリーダー的な存在であり、頭の下がる思いですが、残念ながら、私自身は、山の知識・経験に乏しく、皆さんの後塵を拝するのがやっとです。

この4月から完全ではありませんが、憧れの自由人となりました。おくの細道、信仰の山・お城・美術館巡りなど、余生を尽くしたいと考えております。よろしくお願いいたします。

新協力委員 今井 貴朗

新任協力委員として山行計画を担当させて頂くことになりました。私の山との本格的な出会いは、社会人になり友人達と八ヶ岳に登るようになってからです。小学生の頃はボーイスカウトで低山のキャンプ、高校時代は友人と郷里の山々を登り楽しんでいました。その後山が更に好きになり、会に所属して主に北・南アルプス、南八ヶ岳を楽しみました。30歳を過ぎると家庭の事情ですっぱりと登山を離れ、山道具も処分しました。ところが定年が近づくにつれて再び山への憧れが強くなり、6～7年程前から徐々に登山再開しました。

支部山行企画としては、山の高低、有名無名に拘らず景色を楽しむ縦走主体、それに伴う山小屋、テント泊等、日帰りから泊りまで楽しく安全な登山を心がけていきたいと思っています。特に今まで少なかったテント泊は、ステップを踏みながら楽しめるように考えています。



山の記憶

長野県・御座山（おぐらさん）

南相木村と聞いて、どこにあるのか直ぐにわかる方は少ないかと思われます。私も実際に御座山に登るまでは知りませんでした。文献を頼りに登山口を探しているうちに、おぐら山荘という施設を探し出したのですがその住所が南相木村でした。いろいろな山にクルマで向かうときに悩ましいことが登山口をナビに入れることかと。マップコードが使えるクルマではないので、いろいろ調べて手に入れた緯度・経度を四苦八苦してスマホのマップに入れてクルマに接続して・・・といったことになります。だいたい登山口は住所や電話番号がないので致し方ありません。ちょっと脱線しました。

御座山、この山名も知らないとなす読めません。日本二百名山の一座なのですが、「おぐらさん」と読むので古くから地元



の方の信仰対象の山なのでしょう。栗生登山口から登りましたが、当時は台風の被害で登山口までの林道が大変な被害を受けていて、歩くのも苦労するようなところを30分ほどの時間をかけて歩きました。登山口からしばらくは枯れ沢を進み、やがて右岸の登山道に入ります。途中の不動の滝や御岳神社の石祠を経て避難小屋に着きます。ここから頂上までは直ぐですが、狭い岩峰になっていてなかなか印象的で展望も抜群でした。但し、滑落には十分な注意が必要です。季節は夏で確か暑さで参った記憶があります。途中の林相からすると、秋の紅葉の時期は気持ちの良い登山が出来そうです。途中から見上げる紅葉の先の岩峰が見事かと！コロナ状況が落ち着いたらもう一度行ってみようかと思っています。（小川 和敏）

あ の 日 の 山

千葉支部第1回海外遠征・台湾「雪山」

三木 雄三

私は、東京・品川区の南品川という所で生まれた。山よりは海の町だ。

記憶にある最初に登った山は富士山。とは言っても『品川富士』。品川神社の富士塚だ。今のように、子供の遊びが多様化している時代とは違って、遊びといえば、原っぱでの缶蹴りや鬼ごっこ、雨あとの水たまりでの水遊び…。富士塚登りは特別ワクワクドキドキ。数人の悪童達と連れ立って出かけたものだった。

頂上からは品川宿の向こうに東京湾の台場が見えた。「お台場」というと、今の人たちはフジテレビのある所だと思っている人が多いが、黒船襲来に驚いた幕府が台地の土を削り、点々と大砲を置く人工島を整備したのがそれなのだ。

「富士の嶺西に仰ぎつつ…」と城南中学校歌。西日に富士山が綺麗だった。品川小学校では「地層クラブ」だった。中学生になって登山クラブに入った。小児喘息だった私の健康を心配した担任の先生が「登山をなさい」と勧めてくれた。

「ハアハア」胸が苦しくて、泣きたくなった。それでもクラスの女子がいるから我慢して歩いた。登りきると箱庭(ジオラマ)のような景色が広がった。いつの間にか持病の喘息は完治し、そんな箱庭の景色が大好きになっていた。

「山と三派はダメだぞ」と言う祖父の説教も聞かず、学生の頃は夏になると松本市近郊にあるナガノトマトの工場に住み込んでケチャップを作りながら毎週のように穂高を歩き回った。冬は新宿中村屋でパンやケーキを焼き、さんざん丹沢に通った。就職した新聞社では山岳部を立ち上げた。やがてコラムを担当すると、山コラムが現在千葉支部顧問の吉永英明さんの目に留まり、2007年にJAC入会。

～ ～ ～ ～

2013年7月9日午前6時35分、吉永総隊長以下11人が台湾の「雪山」(シユエシャン・3886m)に登頂した。



天気は快晴、気温4度。これが千葉支部最初の海外遠征登山だった(支部だより第24号参照)。雪山は台湾を南北に走る総延長260キロの山脈の最高峰。思い出すのは森林限界の高さだった。天の川が流れる真っ暗いうちから歩き、富士山の標高になって周囲が明るくなってきた。「暗いなあ」と感じたのはヒノキやトウヒの深い森林の中を歩いていてからだった。

森林限界は夏場の最高気温が平均10度の線に一致し、日本では関東中部で海拔2500m付近だが、緯度が低い台湾では3500m付近まで森があったのには正直ビックリ。さらに驚いたのは山頂付近の典型的な「カール地形」。地球の寒い時代、台湾にも氷河が削ったカールがあった。見事な「褶曲」模様が麓から見えた。深い森、氷河地形、そして台地がうねった褶曲模様…。地層大好き少年だった頃の夢がかなった山旅だった。台湾山岳協会の温かなもてなしも心に残る。



千葉支部3代目支部長・三木雄三さんの印象に残る山でした。

♪ こんにちは ♪



はじめまして。吉田稔&望です。

私（稔）は若い頃はよく山に行っていましたが、望は経験がありません。でも今は私は全く行かなくなり、代わりに望が毎週のように千葉支部の方々にお世話になって山を楽しんでいます。先週は北海道の大雪山、その前は石鎚山、屋久島と日本中を回っていて、羨ましいと同時に山の楽しみを見つけれられてよかったなあと思っています。

若い頃の山と友人は、年齢を経てもどこかで結びついて行きます。

①ヨセミテ

1976年にマッキンリー登山の帰りに立ち寄ったヨセミテで初めてフリークライミングに触れました。それまでの決死の覚悟の岩登りから、明るい太陽のもとTシャツ短パンで楽しむクライミングを見て、こんな世界があるんだとびっくり。その後、ロングルートを一度との思いから52歳になってから再訪しロイヤルアーチからノースドームに登りました。2004年に家族旅行としてヨセミテに行き、現地で秋山哲郎さんと合流し二人で。一番易しいビッグウォールですが、硬い花崗岩の岸壁から足元直下に広がるヨセミテバレーは美しく感激しました。そしてクライミングを通じて大蔵喜福さん、橋本寛さんなど山登り分野の多くの友人ができました。

②立山

1977年から立山の内蔵助雪渓と御前沢雪渓の調査をしていました。数年に一度、雪渓の表面を覆っている雪が融けて古い氷体が現れます。氷体にはところどころに融け水によって作られた縦穴があり、そこに潜って底部から植物を取り出して年代測定をしたら2000年前からの氷とわかりました。人がほとんど行かない自然に触れることは、こんな新しい発見をする楽しみをもたらしてくれます。その時の仲間の飯田肇さん（立山カルデラ砂防博物館）が、その後に調査を重ね氷河であることを立証してくれました。このような調査を通じて氷河研究の多くの友人ができました。

③エベレスト

1980年に植村直己さんが冬期エベレスト登山隊を組織し、その学術班として小嶋尚先生（当時、明治大学教授）と参加しました。厳しい天候に阻まれて登山隊は登頂できませんでしたが、私の任務、標高6400mからアイスコーを採取し凍ったまま日本に持ち帰ることは成功しました。最近になってアイスコーの解析を竹内望先生（千葉大教

授）が行ってくれ、論文（Arctic, Antarctic and Alpine Research, Nov. 2020, p605-616）を投稿しました。査読者からは「なぜ40年も放置していたんだ」と質問が来て、

「より高度な解析をするために分析機器の発展を待っていた」と答えたら、「了解、論文として採択する」と返事が来しました。実際は研究職から離れていたもので放置していただけです。お世話になった登山隊の皆さんや植村公子さんとは今も交流が続いています。

④南極

1983年に第25次南極地域観測隊に参加しました。任務はみずほ基地で深さ500mのアイスコーを採取すること、南極第二の高峰で末踏峰のドームF（3810m）の頂上を見つけることです。半年かけて無事に700mまでのボーリングを終え、9月から始まる明るい夏に雪上車でドームFへ向かいました。「高峰」といってもまっ平らな氷床が続いているだけです。当時はGPSはなく天測しながらルートを作り、1kmごとに竹竿を立てていきます。残念ながら旅行中にみずほ基地で事故が起こり、至急医者をもとめとの指示が来たため頂上直前で引き返し、ドームF初登頂はなりませんでしたが。帰路で通ったやまと山脈は広大な裸氷帯に鋭い岩峰が突き出て、黒い隕石が氷床の表面に点在しているという地球の上とは思えない風景に感動しました。南極では雪氷、生物、地学、設営など多様な研究者・エンジニアの友人ができて今も助けられています。

若く元気なときの山登りも素晴らしいけれど、それから何十年以上も付き合いが続く友人ができたのはもっと素晴らしいことです。私は不整脈を患ってから山登りを控えていますが、家内の望が私の分も山を楽しんでくれればそれで十分です。これからも家内ともどもよろしく願いいたします。



「スケッチアート倶楽部 (S A C)」のモチーフ・・・2019 年 10 月発足

あるがままの自然 (nature) の、あるがままの人生 (life) の扉への道程に潜む多彩な輝きの変化を捉え、巧まずして自分世界を創り出す歓びを 愉しむ集い。水彩画のふる里、英国のチャーチル卿の言葉 (下記) を倶楽部のモットーとする。「絵を描き出せば上手も下手もない。先ず頭の中に何事も無くなる。やってごらん是非一度！ 死なないうちに・・・」 千葉支部の山の勇者佳者の それぞれの心の裡の懐かしい映像の再現機会を共に探したい！

(小菅 一弘)



(水彩画ビッグベン遠景)



【マイサングラス】ヨーロッパアルプスでトレッキングをしながら、山と花のスケッチとビールを楽しむことが新たな夢となりました。(松田 宏也)

【大雪山遠望・赤岳】水彩画の基本を教えて頂き絵を描くのが楽しくなって来ました。自分が登った山の風景を自由に描けるようになれたらいいな。
(三田 芳江)



【夫婦兎】卒寿を迎えて山へも登れなくなりましたので、昔の山々のスケッチでもしながらハイキングをしようかなと思っています。
(塩澤 厚)

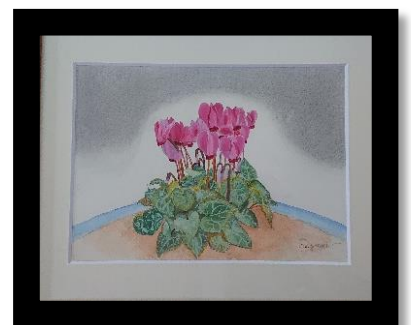


【南瓜】筆を持つ事が好きでは無かったのですが、最近ではチョット楽しくなっております。又、物をしげしげと見るようになりました。(新井 好夫)



【姉妹こけし】伊香保温泉で購入した「おかつば頭4人姉妹こけし」を絵描きました。小学低学年「クレヨン画」だけの経験者が、水彩画を描けるようになりました！！先生、皆様へ感謝。
(宇津木 仁典)

【シクラメン】山の色、花の色。絵の具の色を混ぜる事で画用紙に色が無限大に広がります。今日はどんな色ができるかな。
(松本 さゆり)



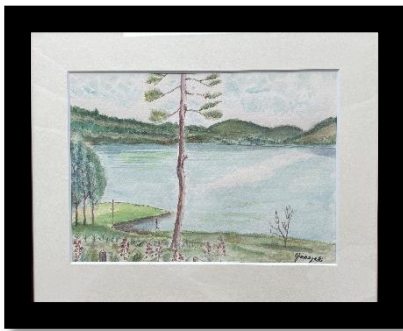


【好物】描いてみたいものの多々あるけれど、出来上がった作品はまったく別物・・・(泣)
夢と現実のギャップに翻弄される日々です(笑)
(竹園 清隆)



【尾瀬沼】日本、海外と山女として歩き回った若き頃。脚もなえてきたこの頃、青春パート2・SAC と出会いました。下手な横好き楽しんでいます。(上村 紀子)

【忍野八海】 SAC に出会い今まで縁がなかった分野の学びの場になっています。今後も細く長く楽しみながら続けていきたいと思っています。(藤木 亥三六)



【尾瀬沼】 SAC に参加して1年半が過ぎようとしています。小さな1歩でも前に進むことが出来れば、いつか頂上に達することを信じて。(山崎完治)

【アルストロメリア (百合水仙)】テーマ、構図、光、色彩、筆遣い…と、なかなか奥深く難しい水彩画。いつかは満足できる一枚を、と思いつつ、SAC の皆さんと楽しく、少しずつでも上達していければ嬉しいな、と思っています。
(國宗 文)



【広瀬湖の白樺】山に登りながら、立ち止まり、今までは写真を撮るのがルーティンでしたが、最近では、その場に立ちスケッチの構図を考えたりします。ものの見方が変わったように思えます。
(小川 和敏)



「SAC」の誕生から今現在

2年前の秋、絵に関しては全くの初心者である老若男女が絵描き学習のために集まった。

先生は、会友であり支部だよりの挿絵作者の小菅一弘氏である。その老若男女の作品が、支部山岳会の「山の日の集い」会場に額装絵にして展示するまでになった。おどろき！である。思い返せば、倶楽部発足直後、初対面の先生の下で講義と実技がスタートし、実技面での第一声は「穂先の半分位を水に浸し絵具は少しだけ付けて、書道の一を書く要領で左右へあるいは上下にまっすぐな線引きを繰り返してみましよう。」であった。

先生は、固より創造性豊かで、しかも湧き上がる行動力をお持ちである。講義中も、自ら言いたいことを自在に表現し、また、一方では絵も人も丁寧に観察し、的確な個別指導に時間を費やしていただける。当初から変わらない熱心な教え育てる指導には頭がさがる。良い先生に恵まれれば、人は上達することを実感した。

SAC生徒間は「山岳」に関しては共有することが多く、仲間意識もあって連帯感が強い。教室内では講義・実技に一生懸命である。一步一步、前進上達しようとする姿は山岳で得たものかもしれません。先生から少々褒められて、気分良くしているのは小生だけでしょうか？先生、また生徒間でも褒め言葉が多い。そして、その後に描く絵画はなぜかすこぶる上達する。そんな人を幾人も見ている。教室内はコミュニケーション良く笑いが絶えない。それはそのような気配りの人が多くいてくれるから。月2回・4時間／日の絵画教室は楽しい学習時間である。

松田支部長のお声かがりて2019年10月に発足したスケッチアート倶楽部「SAC」は、会員も増えて、男女15人が先生の指導に導かれ充実した絵描き教室になっている。折に触れ教室終了後に開催していた反省会は、今、自粛時で流れてばかり。誠に残念・・・である。(宇津木 仁典)

OMM LITE HAKUBA

藤木 亥三六

山行名：OMM LITE HAKUBAに初参加

山行日（天候）：7月17日（晴）～18日（晴）

参加者：藤木亥三六・河内幸子（山梨）・前田敦史（山梨）

タイム：7月17日（5H）・18日（4H）

長野の白馬で開催された OMM に参加した。OMM とは Original Mountain Marathon の略で、1968 年にイギリスで始まった山岳レースでナビゲーション力、セルフ・エマージェンシー力、野営技術など、山の総合力が試される。1 チーム 2～5 人で組み、フィールドに設置されたチェックポイントを地図とコンパスのみでルートを決め、制限時間内に回り、できるだけ多くのチェックポイントを取り、2 日間の総合得点を競うレースである。今回の OMM LITE（誰でも参加の OMM ライト版）は初心者でも参加しやすいイベントであり山梨支部の方達と参加した。ポイントの点数もチェックポイントの難易度等でそれぞれ異なっており、どのポイントを取るかもそのチームの戦略となる。自分たちは、1 日目は高得点の山中などのポイントを手放し、比較的取りやすい平地でのポイントがたくさん回るという戦略で初日は臨んだ。結果的にたくさんのポイントを取ったが、炎天下で後半体力がなくなってしまったこともあり、制限時間内にゴールが間に合わず大幅に減点されてしまった。2 日目は前日の反省を生かしルートも無理をせずに制限時間の余力を残した形でゴールした。今回初めての参加となりましたが、宝探しをしているような感覚でゲームを楽しむことができた。特に地図読みの能力がとても要求され、単純に足の速いチームが高得点を取れるわけではなく、戦略的に無駄のないルートワークをすることで歩いて高得点をたたき出すチームもいた。

またフィールドの白馬の舞台が非常に美しく、アルプスの素晴らしい絶景の中を走り回ったり、対岸のチェックポイントを取るために、靴を脱いで川を素足で渡ったりと、フィールド内の自然のすべてを堪能することができた。夜は各自テントを張り、キャンプをしながら今日の反省や翌日のルートの確認や戦略を練ったりしながら過ごす時間もまた格別なものであった。



ウォーキングクラブ活動報告（5月～7月）

- ① 5月1日(土) 国分川を歩く 中止
- ② 5月21日(金) 権現道と御成り街道 中止
- ③ 6月12日(土) 真間川を歩く 中止
- ④ 6月26日(土) 10:00～12:00 谷津干潟・茜浜 天候 晴
コース：谷津駅ー谷津バラ園前ー谷津干潟ー秋津公園ー茜浜緑地ー新習志野駅(解散)
参加者：塩塚、高橋正、節田、宇津木、黒住、杉本、6名
- ⑤ 7月17日(土) 権現道と御成り街道 中止



（杉本 正夫）

支部山行の予定

- 山行の心得 — リーダーは、ガイドや添乗員ではありません。
「連れて行ってもらう」ではなく、自主的な意識を持ち参加してください。

リーダーが参加者にそれぞれ役割を振り分けますので、積極的に引き受けてください。参加する前に、山域、コース、交通機関などは地図やガイドブック、ネットなどで十分下調べして下さい。地図・コンパス・筆記用具は、どんな山行でも必ず持って来てください。また、山行に見合った登山保険には必ず入ってきてください。遭難救助付きの保険加入は任意ではなく、すべての登山者の義務です。体調不良者が出れば事故と同じで、山行は中止になり引き返すことになります。日頃の自主トレーニングも是非行なうようにしてください。

リーダーの連絡先	
杉本正夫	支部だよりを参照
松田宏也	支部だよりを参照
三木雄三	支部だよりを参照
三田 博	支部だよりを参照
山口文嗣	支部だよりを参照
山田紀夫	支部だよりを参照
小川和敏	支部だよりを参照
三品京子	支部だよりを参照
山本哲夫	支部だよりを参照
今井貴朗	支部だよりを参照

《 難度 》

W ウォーキング

A 整備され歩行 2～3 時間

B 歩行 5 時間前後

C 歩行 7 時間前後、一部岩あり体力要

D 強い体力、岩技術要

E 高い適応能力要、危険度大

(難度は JAC 日本 300 名山を参考。岩・沢及び積雪期は
 難度アップとする。)

個人山行も計画書提出を:

送信先: chiba_jac@yahoo.co.jp

#を@に替えて



山 行 の 予 定 (1 0 月 ~ 3 月)

日 程	山 名	難 度	備 考	リーダ-	締切
10 月 3 日(日)	花見川・ポートタワー	W	1 月中止の分	杉本	9 月 26 日(日)
10 月 6 日(水)~9 日	涸沢・奥穂高	D	前夜発、車、テント泊	山本	9 月 6 日(月)
10 月 9 日(土)	茅ヶ岳	B	深田久弥、終焉の地を訪ねて	今井	9 月 12 日(日)
10 月 9 日(土)	御成り街道周辺②	W	実初~四街道間	杉本	10 月 2 日(土)
10 月 16 日(土)	縞枯山	B	《自然学》縞枯れ現象の謎を学ぶ。先着 10 人	三木	10 月 1 日(金)
10 月 22 日(金)~23 日	両神山	C	日向大谷から(マイカー)	小川	9 月 20 日(月)
10 月 23 日(土)~24 日	会津朝日岳	C	避難小屋泊(出発は 22 日の夜)	松田	10 月 3 日(日)
10 月 30 日(土)	日光・寂光沢	C	東照宮近くで沢登り・日帰り	三田	10 月 15 日(金)
11 月 6 日(土)	鹿野山古道①	W	木更津市桜井~鹿野山神野寺	山口	10 月 30 日(土)
11 月 7 日(日)~8 日	赤城山・榛名富士	B	百名山の赤城山と向き合う榛名富士	松田	10 月 10 日(日)
11 月 7 日(日)	倉岳山、高畑山	C	富士山を望む静かな山	今井	10 月 24 日(日)
11 月 7 日(日)	御成り街道周辺③	W	四街道~千城台間	杉本	10 月 31 日(日)
11 月 13 日(土)	房総・伊予ヶ岳	B	希望者は房総ベース泊で芋煮会	三田	10 月 30 日(土)
11 月 14 日(日)	鹿野山古道②	B	神野寺~関、希望者は房総ベースで前泊し芋煮会も	山口	11 月 7 日(日)
11 月 20 日(土)	山梨・王岳	B	西湖いやしの里根場から 富士山の眺め(マイカー)	小川	11 月 10 日(水)

日本山岳会千葉支部

日 程	山 名	難 度	備 考	リーダー	締切
11 月 21 日(日)	子ノ権現と竹寺	B	奥武蔵・足腰の神様にお詣り（電車）	三田	11 月 13 日(土)
11 月 22 日(月)	成田街道周辺①	W	津田沼～習志野間	杉本	11 月 15 日(月)
11 月 27 日(土)～28 日	山の救急医療講習会		講師：野口支部長（多摩）、27 日 AM 講演会、28 日は親睦登山予定	松田	10 月 31 日(日)
11 月 28 日(日)	鹿野山古道③	W	関～金束	山口	11 月 20 日(土)
12 月 5 日(日)	白狐峠と小鋸山	C	房総キャニオンと房総キレット周回	三田	11 月 28 日(日)
12 月 11 日(土)	群馬・子持山	B	岩場有り（マイカー）	小川	12 月 1 日(水)
12 月 11 日(土)	行徳から江戸へ	W	旧江戸川・新川沿いに	杉本	12 月 4 日(土)
12 月 12 日(日)	鹿野山古道④	W	金束～鴨川	山口	12 月 5 日(日)
12 月 18 日(土)	房総の沢⑧梨沢	C	沢歩き、希望者で房総ベース泊	三田	12 月 10 日(金)
12 月 20 日(月)	三浦・岩礁の道	B	京浜急行・海辺の関東ふれあいの道	三田	12 月 15 日(水)
12 月 22 日(水)	成田街道周辺②	W	習志野～勝田台間	杉本	12 月 15 日(水)
12 月 25 日(土)	栃木・石裂山	C	岩山（マイカー）	小川	12 月 10 日(金)
12 月末(2 泊～3 泊)	八ヶ岳	D	天狗岳方面,日程相談	松田	11 月 28 日(日)
1 月 2 日(日)	高宕山	B	初詣登山・志組林道から	三田	12 月 30 日(木)
1 月 15 日(土)	房総の沢⑨ 鴨川セーナ沢	C	沢歩き、希望者で房総ベース泊	三田	1 月 5 日(水)
1 月 15 日(土)	房総・津森山	B	大崩のスイセンから津森山を往復。下山後に房総 Base で新年会予定	松田	12 月 31 日(金)
1 月 16 日(日)	鹿野山古道⑤	W	佐貫町～神野寺	山口	1 月 8 日(土)
1 月 21 日(金)	成田街道周辺⑤	W	宗吾霊堂と新勝寺初詣	杉本	1 月 14 日(金)
1 月 22 日(土)	川苔山	B	奥多摩の名瀑も訪ねる山旅	今井	1 月 10 日(月)
1 月 23 日(日)	房総の沢⑩ キンダン川	C	房総の沢歩き	三田	1 月 15 日(土)
1 月 30 日(日)	鹿野山古道⑥	B	鹿野山各方面参拝道	山口	1 月 23 日(日)
1 月 31 日(月)	成田街道周辺③	W	西印旛沼周游	杉本	1 月 24 日(月)
2 月 4 日(金)～6 日	裏磐梯スノーシュー	C	民宿泊で雪遊び	三田	1 月 5 日(水)
2 月 5 日(土)	大岳山	B	奥多摩駅から鋸尾根を登り白倉へ下りる	小川	1 月 25 日(月)
2 月 9 日(水)～10 日	佐久間ダム周辺	W	房総ベース泊・同好会登録者限定 10 名まで	杉本	1 月 26 日(水)
2 月中旬	ゲレンデスキー		2 泊もしくは 3 泊予定、場所、日程相談	松田	1 月中旬
2 月 19 日(土)	成田街道周辺④	W	臼井から宗吾参道まで	杉本	2 月 12 日(土)
2 月 27 日(日)	元清澄山、三石山	B	冬場に最適な千葉のハイキング	今井	2 月 14 日(月)

日 程	山 名	難 度	備 考	リーダー	締切
3月11日(金)～13日	瀬戸内・小豆島	C	最高峰の星ヶ城、岩山の碁石山等、新幹線&レンタカー	今井	2月1日(火)
3月12日(土)	土浦と霞ヶ浦	W	自然学・三角洲地形を学ぶ	三木	3月5日(土)
3月13日(日)	西丹沢・ミツバ岳	B	ミツマタの季節に	三田	3月1日(火)
3月19日(土)	六ツ石山	B	水根から登り奥多摩駅へ下りる	小川	3月10日(水)
3月25日(金)	鉄道連隊廃線跡	W	新京成線から外れたところ	杉本	3月18日(金)
3月26日(土)	高尾・日影澤林道	A	自然学・早春の植物と生きもの	三木	3月19日(土)
3月26日(土)～27日	山の天気講習会	B	講師：ヤマテン猪熊氏(JAC 会員) 26日 PM 座学講習、27日は房総Base 周辺で山の天気ライブ講習	松田	2月27日(日)

● 山行の申込み

申し込みは、原則として電子メールで行ってください。その際には下記事項の記入をお願いします。

また山岳保険には必ず加入してきてください。

- ①氏名②生年月日・年齢③住所、自宅電話番号、携帯電話番号④緊急連絡先氏名（続柄）、緊急連絡先電話番号
※年齢は山行日の年齢です。計画書と違うと保険が効かない可能性もあります。

山行によって定員を設けています。技術・体力不足、初参加で力量不明の場合はお断りすることがあります。

コロナ対策： 密集を避け、山小屋や休憩所などではマスク着用や消毒など決められた

ルールに従うようにしましょう。

お知らせ

一事務局からー

● 11月27日開催 山の救急医療講習会の講師 野口いづみさんのプロフィール

横浜市出身、東京都在住。都立武蔵高校と東京医科歯科大学で山岳部に所属。著書に「山の病気とケガ」（山と溪谷社）、「山登りトラブル回避&対処マニュアル」（大泉書店）など。山の医療の執筆や講演会を行っている。一般登山のほか、夏は沢登り、積雪期は山スキーを楽しむ。国内は100名山を登って、300名山を夢見ている。海外はワスカラン、玉珠峰、マッターホルン、モンブラン、エルブルース、キリマンジャロなど約30座登頂。日本山岳会東京多摩支部の支部長と医療委員会委員長、日本山岳文化学会常務幹事。



● 役員会報告

○6月報告 6月16日（水）リモート（松田、三田、山口、小川、塩澤、三品、山田、杉本）

◇山行・行事報告 5/22 岩殿山、5/28・29 天城山、6/5 平標山（清水理事送別山行）

◇山行・行事予定 六つ石山、谷津干潟、磐梯山など◇検討・報告事項 総会書面決議の報告、役員分担の確認、房総ベース、ホームページ改訂、入退会報告ほか

○7月報告 7月21日（水）リモート（松田、山口、山本、山田、小川、三品、甘楽、三田）

◇山行・行事報告 6/26 谷津干潟、7/10・11 大滝根山と五色沼、7/18 ナメラ沢／個人山行：幌尻岳利尻山

◇山行・行事予定 針ノ木岳と蓮華岳、薬師縦走など

◇検討報告事項 6/19JAC 総会、山の日のつどい予定、房総ベース、ホームページ改訂、山の天気講習会、山の救急医療講習会、入退会報告ほか

○8月報告 8月18日(水)リモート(松田、山口、山本、山田、甘楽、上村、小川、三品、杉本、三田)

◇山行・行事報告 7/24~26 針ノ木蓮華 その他は中止。山の日のつどい中止報告

◇山行・行事予定 御座山(中止)、瑞牆山(中止)など

◇検討報告事項 コロナ緊急事態宣言中の山行について(期間中は支部山行中止を決定)、山岳古道プロジェクト(全6回で行う)、3月までの山行予定、房総ベースについて、11/27・28山の救急医療講習(講師:野口いづみ多摩支部長)、3/26・27山の天気講習(講師:ヤマテン猪熊隆之さん)、藤木玄三六さんを協力委員へ推薦、ホームページ改訂、支部だより、入退会報告など

● 会員・会友の動向

《入会・会友》

S.Aさん(横浜市)

S.Tさん(神奈川県厚木市)

K.Mさん(千葉市)

U.Sさん 東京都荒川区

《退会》

H.Hさん(16515・転居のため支部退会)、R.Iさん(会友)

《新協力委員》 藤木玄三六さん

《協力委員退任》 谷内剛さん

千葉県近辺のお蕎麦屋さん ※独断で選定

● 日曜庵

千葉県側から「矢切の渡し」を使って柴又に着くと、すぐ近くに在ります。店名の通り週末だけの営業です。昼間から一献というお客さんも多いお店です。最近人気店となり、予約をされた方が無難かもしれません。ご主人は色鉛筆で素敵な絵を描かれたりする多才な方です。

● きぬたや

国分寺駅から歩いて15分ほど。近くに名所「お鷹の道」が有り散策コース沿いにひっそりと在ります。暖簾を表に出さないことで昔から有名です。珍しい出雲の小そばを出してもらえます。基本、前日までの予約制です。まあ、空いていれば入店させてもらえますが・・・

● 潮

西国分寺駅から歩いて15分ほど。ご主人は和食の料理人です。その引出しの多さは驚きです。季節ごとの鍋料理のほか、珍しい魚のご主人独自の料理等などが魅力となっています。仏像の彫刻が店内に飾ってあります。ご主人が包丁の代りに彫刻刀を握って作り続けているものです。一見の価値絶大かと思えます。

この時期、必ず事前に連絡をしてから来訪するようにして下さい。



編集後記; 編集5回目です。基本的に前号の体裁を踏襲しています。今後、皆さまのご意見を戴きながら、より良い「支部だより」にしていきたいと考えています。宜しくお願いいたします。

蒸し暑い日など、マスクが鬱陶しい感じが仕方ありません。オリンピック・パラリンピックが賛否両論ありながらも何とか開催できましたが、真の評価は数年後に決まるのでしょうか。

津田沼のヨシキスポーツさんにはSAC教室会場の提供ほか、千葉支部として大変お世話になっています。山用品を購入するときは是非ご利用して頂きたいと思います。会員になると割引があります。(小川和敏)

三陽メディア株式会社